

02403892

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-291572

(43)公開日 平成9年(1997)11月11日

(51)Int.Cl.⁰
E 03 C 1/06
F 16 B 1/02

識別記号 庁内整理番号

F I
E 03 C 1/06
F 16 B 1/02

技術表示箇所
C

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平8-131211

(22)出願日 平成8年(1996)4月26日

(71)出願人 000242378
株式会社ケーブイケー
岐阜県岐阜市黒野308番地
(72)発明者 松村 喜弘
岐阜県岐阜市黒野308番地 株式会社ケーブイケー内
(72)発明者 大野 正
岐阜県岐阜市黒野308番地 株式会社ケーブイケー内
(72)発明者 坪田 充夫
岐阜県岐阜市黒野308番地 株式会社ケーブイケー内
(74)代理人 弁理士 伊藤 錠

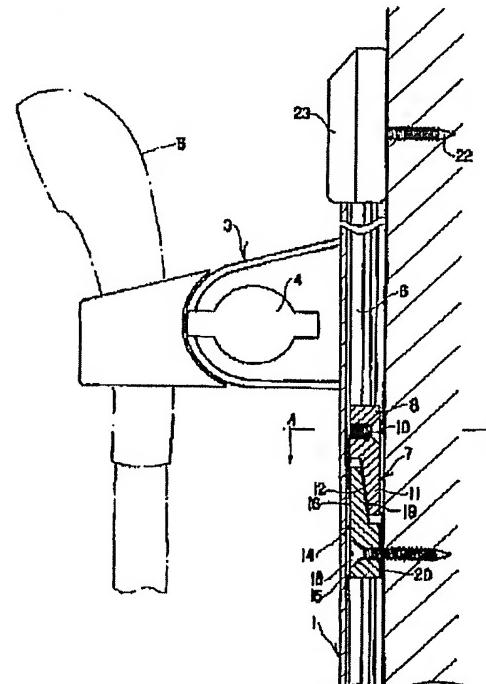
最終頁に続く

(54)【発明の名称】スライド式シャワーハンガーのガイドレール取付構造

(57)【要約】

【課題】スライド式シャワーハンガーのガイドレールを表面にビスを露出させることなく見栄えよく壁面に固定できるスライド式シャワーハンガーのガイドレール取付構造を提供する。

【解決手段】ガイドレール1のガイド溝2、2に沿ってハンガー本体3をスライド可能に支持するスライド式シャワーハンガーにおいて、ガイドレール1の背面にフック部11が下向に延びる形態で掛止片7を固着すると共に、壁面にフック部16が上向に延びる形態で掛止片14を固着し、両掛止片7、14を掛合わすことによりガイドレール1を壁面に固定した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ガイドレールのガイド溝に沿ってハンガ一本体をスライド可能に支持するスライド式シャワーハンガーにおいて、ガイドレールの背面にフック部が下向に延びる形態で掛止片を固着すると共に、背面にフック部が上向に延びる形態で他の掛止片を固着し、この両掛止片を掛合わせることによりガイドレールを背面に固定したことを特徴とする。また本発明は上記ガイドレールの背面に形成されたアリ溝に掛止片の基部を挿入して該基部に背面よりビスを螺入することにより掛止片をガイドレールに固着したことと特徴とする。さらに本発明は上記両掛止片のフック部の内面をテーパ状に先細に形成したことを特徴とする。

【請求項2】 ガイドレールの背面に形成されたアリ溝に掛止片の基部を挿入して該基部に背面よりビスを螺入することにより掛止片をガイドレールに固着した請求項1に記載のスライド式シャワーハンガーのガイドレール取付構造。

【請求項3】 両掛止片のフック部の内面をテーパ状に先細に形成した請求項1または2に記載のスライド式シャワーハンガーのガイドレール取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、シャワーを壁面に固定されたガイドレールに沿って所定位置に移動し得るスライド式シャワーハンガーに関するもので、さらに詳しくはそのガイドレールの壁面への取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 浴室、シャワールーム等の壁面に固定した丸棒状のガイドレールに沿ってハンガ一本体を移動できるようにしたスライド式シャワーハンガーは、実開昭60-9165号公報等により知られている。同公報に示されたスライド式シャワーハンガーは、ガイドレールの両端部にエンド部材が嵌着され、該エンド部材をビスにより壁面に固定したものであった。

【0003】 ところでこのように両端部だけをビス止めした取付構造では、全長1メートル近くもあるような長いガイドレールの場合に、中間部における支持が不安定となって充分な取付強度が得られないという問題があった。しかし中間部においても両端部と同様のビス止をすると見栄を悪くしたりハンガ一本体の移動の障害となるおそれがあった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 そこで本発明は、スライド式シャワーハンガーのガイドレールを表面にビスを露出させることなく見栄えよく壁面に固定できるスライド式シャワーハンガーのガイドレール取付構造を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 そのために本発明のスライド式シャワーハンガーのガイドレール取付構造は、ガイドレールのガイド溝に沿ってハンガ一本体をスライド可能に支持するスライド式シャワーハンガーにおいて、

ガイドレールの背面にフック部が下向に延びる形態で掛止片を固着すると共に、背面にフック部が上向に延びる形態で他の掛止片を固着し、この両掛止片を掛け合わせることによりガイドレールを背面に固定したことを特徴とする。また本発明は上記ガイドレールの背面に形成されたアリ溝に掛止片の基部を挿入して該基部に背面よりビスを螺入することにより掛止片をガイドレールに固着したことを特徴とする。さらに本発明は上記両掛止片のフック部の内面をテーパ状に先細に形成したことを特徴とする。

【0006】

【発明の実施の形態】 次に図面と共に本発明の実施の形態を説明する。図1にこのスライド式シャワーハンガーの外観斜視図、図2にその縦断面図、図3に図2のA-A線断面図を示す。図において、1は両側面にガイド溝2、2が形成されたアルミ製の押出成形品からなるガイドレールで、該ガイドレール1に沿ってハンガ一本体3がスライド可能に設けられ、該ハンガ一本体3の一側に突設されたハンドル4を締付することにより該ハンガ一本体3をガイドレール1上の所望位置で固定でき、シャワーヘッド5を所望の高さに支持できる。

【0007】 ガイドレール1の背面にはアリ溝6が形成されている。7はプラスチック製の掛止片で、該掛止片7は図4に示したようにやや幅広に形成された基部8をアリ溝6に一端より挿入すると共に該基部8に形成された透孔9に背面より頭なしビス10(タッピンネジ)を螺合し、該ビス10の先端をアリ溝6内底に押圧することにより該掛止片7をフック部11が下向となるように固着する。なお、該フック部11の内面12はテーパ状に先細に形成されている。

【0008】 一方、図5に示した壁面固定用の掛止片14は上記掛止片7と同一形状のプラスチック製のもので、基部15とフック部16とからなり、基部15に透孔17が形成されている。そして、該掛止片14は頭付のビス18を透孔17に貫通し浴室等の壁面に該フック部16が上向となるように固着される。該フック部16の内面19はテーパ状に先細に形成されている。なお、20は基部15と壁面間に挟む水封用パッキンである。

【0009】 しかし、このガイドレール1を取付ける際には、壁面の適宜高さに孔を開けて上記ビス18を螺合し掛止片14を固着し、該掛止片14にガイドレール1背面の掛止片7を掛止し、図2に示したように両掛止片7、14の内面12、19を重合させる。この内面12、19はテーパ面のために、ガイドレール1が荷重により下がると該ガイドレール1は壁面に隙間なく引き寄せられ止着できる。

【0010】 そしてガイドレール1の上端部および下端部には、図1に示したようにエンド部材21を装着し、ビス22を該ガイドレール1およびエンド部材21に貫通させることにより壁面に固定すると共に、該上端

3

部および下端部をエンドキャップ'23により被う。

【0011】

【発明の効果】このように本発明のスライド式シャワー ハンガーのガイドレール取付構造は、ガイドレールの背面に掛止片を固着し、これを壁面に固定した掛止片に掛 合わすことによりガイドレールを壁面に固定したので、 長いガイドレールでも中間部にて壁面に固定でき取付強 度が得られる。またガイドレールの背面に形成されたア リ溝に掛止片の基部を挿入して該基部に背面よりビスを 螺入することにより掛止片を固定することで、ガイドレ 10 ルを表面にビスを露出させることなく見栄えよく固定 できる利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るスライド式シャワー ハンガーの外 観斜視図。

【図2】図1のガイドレールの横断面図。

【図3】図2のA-A線断面図。

【図4】ガイドレール背面の分解斜視図。

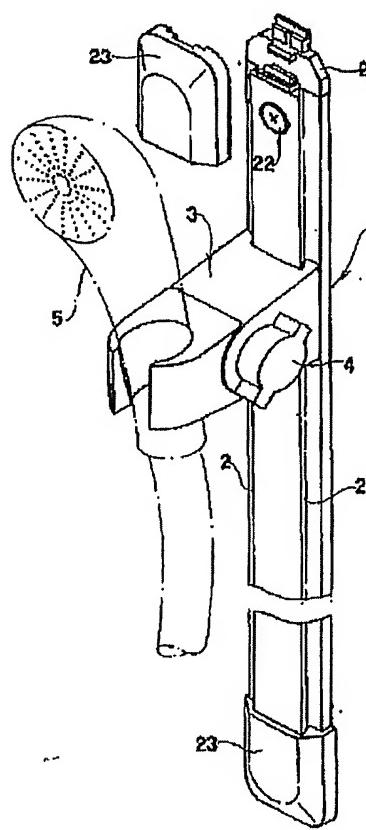
【図5】壁面固定用掛止片の分解斜視図。

4

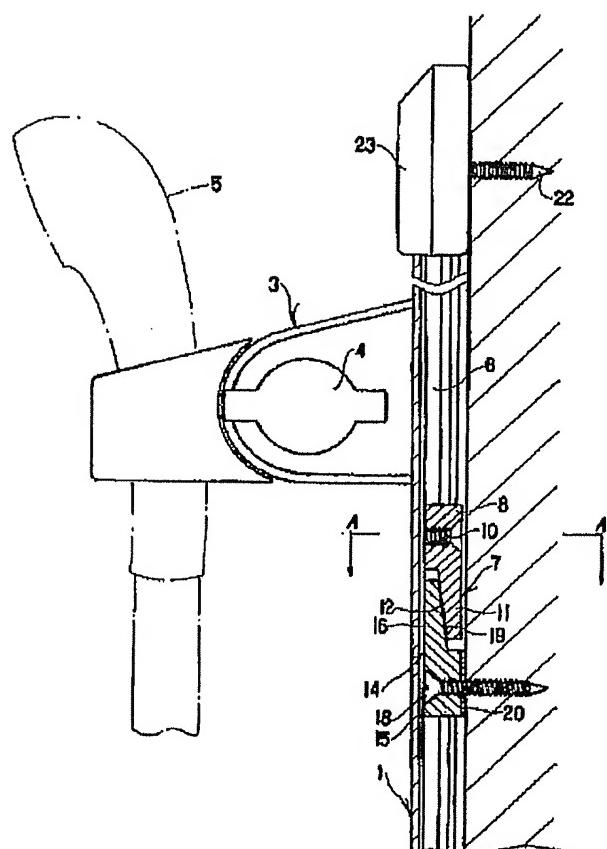
【符号の説明】

1	ガイドレール
2	ガイド溝
3	ハンガー本体
4	ハンドル
5	シャワー ヘッド
6	アリ溝
7, 14	掛止片
8	基部
9	透孔
10	頭なしビス
11	フック部
12, 19	内面
15	基部
16	フック部
17	透孔
18	頭付のビス
20	水封用パッキン

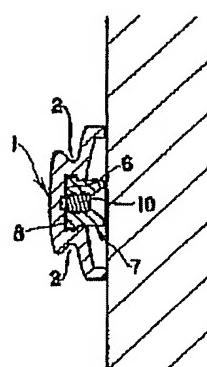
【図1】



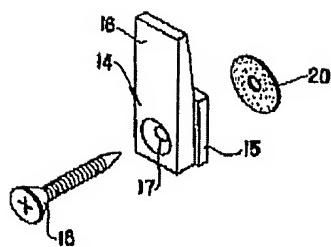
【図2】



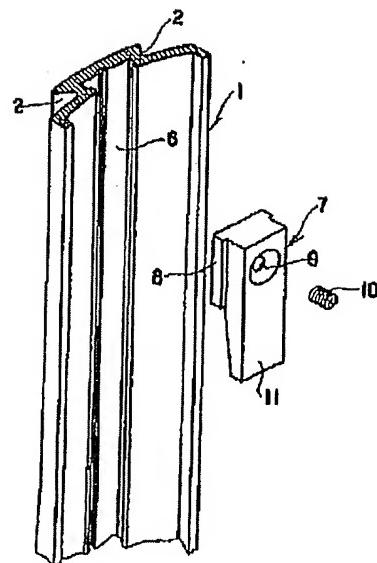
【図3】



【図5】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 須藤 栄宏

岐阜県岐阜市黒野308番地 株式会社ケーブイケー内